

今月のテーマは「心の整理」です。人は自分の意志があるから考え行動しています。日常生活において、歩こうとする意志から歩き、食べようとする意志から食べます。

また、自分を磨きたい、会社を発展させたいという意志から、本紙を読み、経営者モーニングセミナーに通うのでしょうか。

意志とは、心の働きのことであり、私たちの生活は心によって成り立っているのです。すべての活動の先に立つ心が整理されているか否かで、その後の結果は変わります。では、心の整理とは具体的にどのようなすればよいのでしょうか。

夫婦で病院を開業し、看護師長として働くI氏。自身が多難な幼少期を過ごしたことから、〈子供達には幸せになつてほしい〉という一念で、理事長である夫と共に二人三脚で走り続けてきました。

一方で、家庭では子供を育てる母として過ごす中で、長男の進路に関する悩みを抱えていました。長男は大学を卒業して就職したものの、入社して数カ月で退職してしまったのです。I氏は思いもしなかった状況を目前にし、長男に対して、母として、そして社会の先輩として責め心が増していききました。

ある日、I氏は息子の就職について倫理経営指導を受けました。そこで講師から提示された実践は、①夫と心を合わせることに、②子供を信じ任せること、の二点でした。

I氏は、夫婦仲は問題ないと思っていました。しかし、いざ実践を始めると、病院



我が子を変えるのではなく まずは自分の行動を変える

での勤務時、夫から提案がある度に〈そうではない〉と、受け入れられない自分に気づきました。それも一度や二度ではなく、いかに自分の主張を通し、夫が自分に合わせてくれているかを痛感したのです。

それは、長男に対しても同様でした。開業当時は仕事に追われ、遅い時間に帰ることがほとんどでした。寒い日も愚痴一つこぼすことなく、妹の面倒を見てくれていたのが長男でした。時には「暖房ぐらいつけなさいよ、お兄ちゃんなんだから」と当たったこともありました。食事が遅くなっても「お腹すいた」の一言もこぼさなかった長男。中学から実家を離れ、親が希望する学校に進学しました。長男はその後の進路で迷い、「こんな息子でごめんなさい」とI氏に謝ったこともありました。

振り返ると、夫と同様に、自分を後回しにして、家族を優先する、本当に優しい子だったのです。I氏が自らを改め、夫婦愛和で子供の力を信じ任せてから二カ月が経った頃、長男は他県での就職を決めました。心の整理をするにも、いくつかの実践があります。I氏の体験は、自分の役割や、物事の順序を自覚した実践といえるでしょう。母である前に、夫の妻という役を知り、子供を変える前に、夫婦愛和が先であることを自覚し実践しました。人を変えるのではなく、自分が変わることが先という「人は鏡」の実践に徹した時、I氏の心は整理され、心の変化（整理）から生じた行動が、環境の変化へとつながっていったのです。